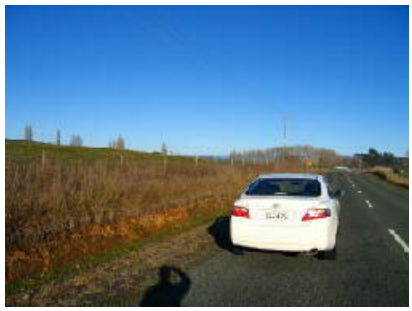
KIA ORA～ニュージーランド・ロトルア旅行2009

E Ihowa Atua, O nga iwi matou ra ata whakarongona;
Me aroha noa Kia hua ko te pai; Kia tau to atawhai;
Manaakitia mai Aotearoa

これはニュージーランド国歌で、ラグビーの国際試合（テストマッチ）などで耳にします。歌詞は、先住民族のマオリ語ですが、ローマ字読みすれば自然と歌えるから、あら不思議です。言語学上は、日本語とマオリ語が同系列だそうで、アイウエオの母音の発音が同じだとか。

さて、今回の旅はロトルア・レンタカーツアー。初めて海外で自動車を運転する事になりました。
まあニュージーランドの交通ルールは、左側通行で右ハンドルだし標識も絵や文字でわかりますから日本同様、法定速度遵守で安全第一に努めればなんとかなるものです。違うのは交差点で信号以外に「ラウンドアバウト」と呼ばれるロータリーがある事で、右から来る車が無ければ進入可能です。指示器の出し方がよくわかりませんが、右折時だけ右ウインカーを出して、あとは進入時・退出時に左ウインカーさえ出しておけば大丈夫かと思います。ただ、市街地以外の標準的な速度が時速100kmで、ばんばん飛ばすから流れについていくのが大変です。



国際免許も地元門真の公安委員会に行けば、証紙2650円を貼って写真を提出して申請すると1時間もしない内に簡単に手にすることができます。
実際、自らレンタカー店で交渉するのは大変でしょうが、そこだけは現地添乗員のサポートを受けてトヨタ・カムリを借りて出発です。運転に神経を使うのは確かですが、お陰で行動範囲が広がり充実した観光が可能となりました。

1、マタマタ～ホビット庄

またまた、ロード・オブ・ザ・リングの追っ掛けです。食いしん坊の小人で物語のメインキャストのフロドやサムやビルボなどのホビットの住居のシーンを撮影した個人所有の牧場を訪問です。
ロトルアから牧歌的な風景を眺めながら車で一時間、空の青と芝生の緑に羊の白が映えるツアーの出発点、マタマタのシェアズ・レストに到着です。ここからは専用の車両に乗り換えて、フレンドリーなキーウィ（ニュージーランド人）が牧場内を案内してくれます。

当然のことながら、全て英語でちんぷんかんぷんですが、ここで監督がこう考えたとか、その場所がどんなシーンで使われたか、それをツアー参加の皆さんに問いかけたり、撮影当時の様子と現在の比較をしたり、面白おかしく語ってくれていた様子です。

日本人が英語を話せないのは別として、最高の天気の中で、広大な眺望の自然に囲まれただけでも大満足の充実した時間となりました。

また、おまけで羊の毛刈りショーとベビー羊へのミルクタイム。ここでは、おとなしく散髪される羊や、アルプスの少女ハイジのタイトルバックみたいに子羊が飛びあがるシーンも見られますよ。

2、ロトルア～火山とマオリ

ロトルアの街はイオウの香。日本の温泉街で嗅ぐことができるゆで卵みたいな匂いで、大きな湖を囲んで拡がる土地のすべてでこの香がします。

この街を表現するなら「巨大な温泉街？」「巨大な別府？」

市内中心のクイラウ公園に足湯が湧き、至る所から水蒸気が立ち上り、道路沿いには、なんとかスパとか、かんとかリゾートとかの看板が目立ちます。まあ、健康ランドと温泉付き旅館・民宿・ホテルにモーテルが立ち並んでいる状態で、こちらの人気は、入浴は当然、泥湯・ミスト・サウナ・マッサージにセラピーまで完備するポリネシアン・スパです。

ただ、日本と違うのは、水着着用ですからなんとなく敬遠してしまいました。昔は施設じゃなく、野原から湧き出る天然温泉に裸で飛び込んだみたいですが、開発前の古きよき時代の思い出となってしまったようですね。

観光も、地熱発電所・湧水・噴火口に間欠泉と火山活動に伴う天然もの。

ワイ・オ・タブは色鮮やかな地熱地帯からの様々な地熱活動が売り物。オレンジ色の地面に囲まれた60mもの深さの温泉やエメラルド色のプール（ただし有毒な砒素ですが）などなど。

レディー・ノックス・ゲイザーという名の間欠泉は、10時15分に人工的に源泉を20mの高さまで噴出します。当初、係員が下でバルブを開けるのかと思っていましたが、噴出口に物質（石鹸だそうです）を投げ込み、化学反応による噴出を待ちます。

オラケイ・コラコは密かに隠れた渓谷。駐車場でチケットを買って船で強烈なイオウの香が漂う対岸へ。霧が立ち込める地熱地帯を歩くと幻想的な気分に浸れます。

ここの呼び物は温泉洞窟。地下に深く開いた洞窟を降りれば底には澄んだ水が拡がる。そっと手を浸ければ少しぬるめで、空を見上げてゆっくり浸かるには最高の湯加減の秘密の空間。
イギリスBBCのディスカバリー・チャンネルが絶賛した秘境と納得できました。

続いてはファカレワレワ。温泉のカマドで茹であげたハンギ料理が魅力的です。これは、トウモロコシにジャガイモ、サツマイモ、ニンジン、鶏肉などを温泉の熱で茹で上げた先住民族マオリの家庭料理で、素材の旨味を引き出す素敵な調理法です。
ここは、現代のマオリが実際に居住する場所でもあって、建物から装飾・調度類までマオリ文化を今に伝えています。

マオリは、ルーツを辿れば太平洋のハワイやサモアあたりの島々を住居とするポリネシアンが船を使って渡ってきて、ニュージーランドに定住したと言われています。
マオリ文化で有名なのは、ラグビーのオールブラックスが試合前に見せるハカ（ウォークライ）ですが、これは、本来は戦いの儀式であり、勇壮な舞で戦闘前の相手を脅し、自らのモチベーションを高める効果があるものです。ゆえに力強く、舌を出して、目を見開いて怖い顔をします。マオリ文化はこの北島に多く見られ、中心はロトルアだと言われているようです。

また、この施設の真横にあるのが、入場するだけでニュージーランドの全てがわかるテ・プイアで、柵を乗り越えたら入場できそうな状態です。

マオリが先住民族なら、そのまた昔の先住者は恐竜です。ロトルアでは恐竜の生き残りとでもいうべき爬虫類、生きた化石とも呼ばれるトュアタラの生きた姿を拝めます。飛べない鳥・キーウィだけでなく、そんな珍しい生物と遭遇できるのがレインボー・スプリングスなる場所です。

３、タウポ～山と渓谷

ロトルアから車で南へ一時間半、大自然に抱かれた街タウポがあります。

ここもロトルア同様にイオウの香が漂うのですが、もっと南の山岳地帯への基地となる場所で、登山やスキー客が集まります。登山は無理ですが、タウハイ滝までトレッキング気分で歩いてみたり、クレーター・オブ・ザ・ムーンという地熱地帯のボードウォークを楽しんだりと、大自然に親しんでみました。

また、現代のキーウィは遊ぶことが大好きで、高い所から足にゴムを付けて飛ぶバンジー・ジャンプやゴム・ボートを使って川下りをするラフティング、猛スピードのジェットボート、斜面をゴム風船で転がり落ちるゾーブなどのアクティビテイにもエントリーできます。これらの過激なアドベンチャーには、ニュージーランド発祥のものが多いようです。

タウポ湖の美しい湖畔でランチして、トンガリロ山やルアペフ山にナウルホエ山の麓をドライブ。

圧巻は驚きの水量のフカ滝探検。元々は高度差を流れ落ちる滝だったのが、永年の侵食作用により、斜面を駆け抜ける鉄砲水みたいな強力な流れになってしまいました。滝の上から見ても凄いし、クルーズ船に乗って滝に近づけば地球の息吹を感じます。

滝に向かって突撃するジェットボートなんて選択もありましたが、安全第一で下流のダムからワイカト川をゆっくりと遡上してみました。

タウポでの宿泊はコプソンホテル。インターネットで発見し、そこから予約して、美しい湖畔の夜を独占しました。

4、オークランド～霧雨と強風

前回の訪問の際は、オークランドを通過しただけ。今回は、楽日の前日にロトルアからハミルトン経由でレンタカーに乗ってニュージーランドNo.1の大都会オークランドに突撃。

数日間の滞在でキーウィ気分のドライバーになったつもりが、複雑なラウンドアバウトに一方通行と交通量の多さに四苦八苦。神経を擦り減らしながら車を操るのですが、天気も最悪。

とりあえずはオークランド博物館へ。魅力いっぱいの展示品の数々、というよりあまりの展示品の多さと面積の広さにグロッキー。マオリの歴史、ポリネシアンの装飾品に戦争の記録、火山噴火アーカイブに進化する生物の標本などなど・・・と研究課題の山ですが、お疲れの今日はこれくらいに。

続いてオークランドが一望できるマウント・イーデンに駒を進めますが、霧雨の中、地図を片手に右・左・上、無事登り口を発見し山上の展望台を目指します。ガイドブックによると市内を一望できる

はずですが、眺望は皆無。見事に霧に包まれて360度真っ白で、雨は激しく降るわ、風も強さを増して傘もさせず。続いてスーパー14（ラグビーの南半球3カ国のリーグ）のブルーズが本拠とするイーデンパーク・スタジアムへ。数々の名勝負を生んだスタジアムは改修工事中で、目的地オークランドの訪問先全てでお疲れ様。「次回こそは・・・」なんて気分で今回の旅を終えました。

また、ニュージーランドに戻ってくる事を誓って、あらためて国歌斉唱です。
今度は英語バージョンから。

God of Nations at Thy feet, In the bonds of love we meet,
Hear our voices, we entreat, God defend our free land.
Guard Pacific's triple star From the shafts of strife and war,
Make her praises heard afar, God defend New Zealand.

参考まで、"KIA　ORA"とは、マオリ語で「こんにちは」を意味します。

平成21年7月2日記

Top
トップへ
Back
戻る